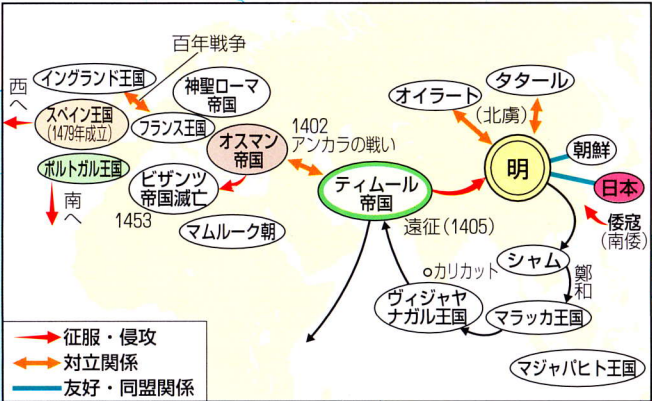


● 15世紀の概観



世紀	14	15	16
イギリス	リチャード3世	ヘンリー7世	ヘンリー8世
フランス	シャルル7世	ルイ11世	フランソワ1世
ポルトガル	エドゥアード1世	ジョアン2世	ジョアン3世
スペイン	イサベル1世	フェリペ1世	カルロス1世
オスマン	ムスリム1世	ムスリム2世	ムスリム3世
モスクワ	イヴァン3世	シメオン2世	イヴァン4世
タイムール	バハル・ゾド	ムハンマド 2世	ヒュームン
オランダ	フリスラント	ハブスブルグ	ハブスブルグ
元	タギル	タギル	タギル
高麗	高麗	高麗	高麗
室町	足利義満	足利義隆	足利義満
朝鮮	朝鮮	朝鮮	朝鮮

- ① 明は永楽帝治下で対外積極策をとり鄭和の遠征も行ふ。帝の死後は「北虜南倭」に苦しむ
- ② タイムール帝国が徐々に衰退し、オスマン帝国が再興
- ③ 英仏は国民国家の基礎を確立。スペイン・ポルトガルは国土回復運動を完成、新航路を発見



鄭和 (1371~1434頃) 雲南出身のイスラム教徒(色目人の子孫)。12歳で捕虜となり宦官とされた。身長180cmの偉丈夫で、靖難の変で功績をあげた。

鄭和の南海大遠征

鄭和は、1405年から7回にわたり南海遠征を行った。南海諸国に朝貢貿易を促すことが目的でインドのカリカット(胡椒の産地)やホルムズ(竜涎香や馬の産地)を目的地とし、一部はメッカや東アフリカのマリンディに至った。



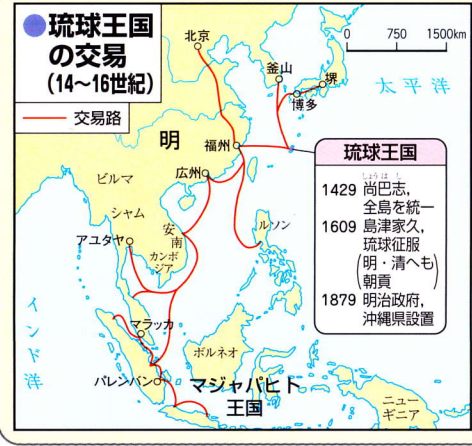
鄭和の船団
 約8000トン
 9本マスト
 62隻(第1回)
 乗組員 約2万8千人

ヴァスコ=ダ=ガマの船団
 ●P130(地) 約120トン
 3本マスト
 4隻
 乗組員 約170人

キリン 瑞祥を告げる伝説上の動物麒麟と現地語で同音のキリンが東アフリカからもたらされ、永楽帝は喜んだ。

琉球王国の繁栄

琉球では、15世紀前半中山王尚巴志が北山・南山を滅ぼし琉球を統一した(琉球王国、都、首里)。明に朝貢する琉球は、シャムのアユタヤ朝やマラッカ、朝鮮や日本との中継貿易(那覇港)によって栄え、各地の文化を融合した琉球文化を築いた。1609年、島津藩の支配下に置かれたが、明(清)の朝貢国としても存続した(1879年琉球藩 → 沖縄県)。



首里城正殿(1992年復元)。赤い柱や竜の装飾、二重の屋根など中国(紫禁城太和殿 ●P89号)の影響を受けている。



琉球の進貢船 琉球船は毎年中国に渡航し中国商品を東南アジア、朝鮮、日本に売りさばいた。進貢船は中国のジャンク船と同タイプ。(琉球貿易図屏風)

